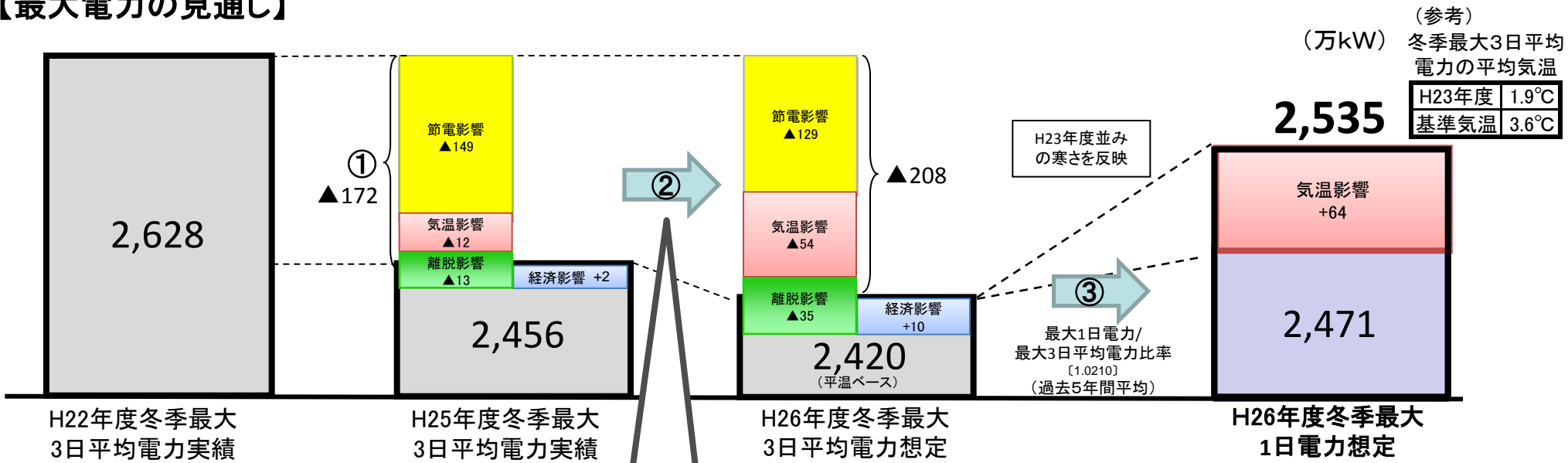


今冬の需給見通しについて

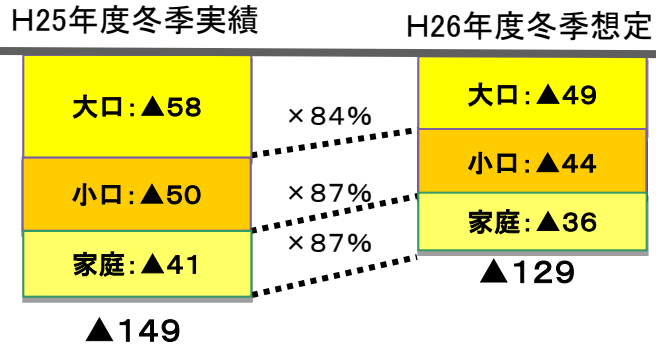
平成26年10月29日
関西電力株式会社

今冬の最大電力想定の考え方

【最大電力の見通し】



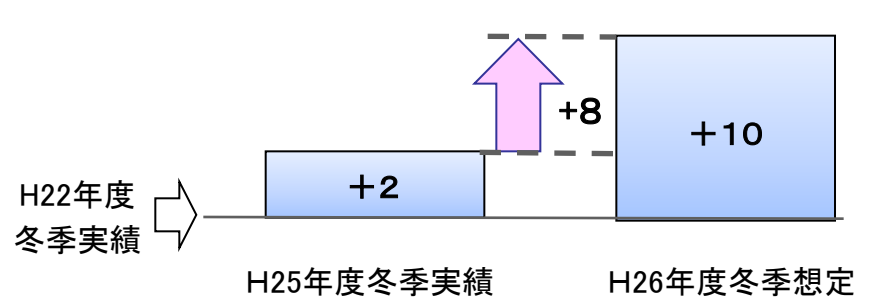
【②-1:節電影響の見通し】



【節電アンケート結果 (H26.8実施)】

	継続率	サンプル数
大口	84%	518件
小口	87%	739件
家庭	87%	1,071件

【②-2:経済影響の見通し】



- ①: H25年度冬季における節電影響、気温影響、離脱影響、経済影響を、H22年度冬季実績と比較して算出しています。
- ②-1: 今冬の節電影響は、至近のアンケート結果に基づいた大口、小口、家庭別の節電継続率により、▲129万kWと想定しています。
- ②-2: 今冬の経済影響は、今後の景気拡大を織込み、H25年度冬季と比べ+8万kWとなる、+10万kWと想定しています。
- ③: H23年度並の厳寒を反映した今冬の最大1日電力は、最大1日電力/最大3日平均電力比率(過去5年間平均)を用いて、2,535万kWになるものと想定しています。

H26年度冬季の需給見通し(2月:原子力の再起動がない場合)

[万kW]

	①H25想定 (2月)	②H26冬想定 (2月)	差分 (②-①)	備考
供給力-需要 (予備率)	79 (3.0%)	77 (3.0%)		(凡例) ☆ 計上の考え方 ○ 昨冬との差分
需要	2,576	2,535	▲41	○H23年度並厳寒を想定
供給力(合計)	2,655	2,612	▲43	
原子力	0	0	0	☆稼働していない原子力は、再起動がない場合として計上しない
水力	166	165	▲1	☆天候によらず安定的な供給力として下位5日の平均から算定
火力	1,565	1,663	+98	・姫路第二4~6号 +146 (内、6号は試運転) ・定期点検 ▲45(H25:南港3、H26:海南2、海南4) ・火力増出力等 ▲3
揚水	291	253	▲38	☆想定需要とベース供給力から算定
新エネ	0	0	0	☆冬季は点灯ピークを想定しており、太陽光は供給力に見込めない
他社・融通	633	532	▲101	☆冬季は点灯ピークを想定しており、太陽光は供給力に見込めない
他社	481	472	▲9	☆必要予備力を確保できるよう調達を計画 ○IPPの契約満了に伴う減等(▲11) ○応援融通の減(▲103) 応援融通受電量 H25:149、H26:46 ○新電力からの調達の増等(+11)
水力・揚水	53	54	+1	
火力	428	417	▲11	
新エネ	0	0	0	
融通等	152	60	▲92	

※四捨五入のため合計が合わないことがあります。

○原子力の再起動がない場合、姫路第二発電所の設備更新による供給力の積み増しや火力の震災特例の活用による定検繰り延べ等を行っても自社では供給力が不足する厳しい需給状況となりますが、他電力からの融通のご協力などにより、最低限必要な予備率3%は確保できる見通しです。

今冬の需給見通し(原子力の再起動がない場合)

(発電端:万kW)

	1 月	2 月
需要	2,535	2,535
供給力	2,612	2,612
予備力	77	77
予備率	3.0%	3.0%

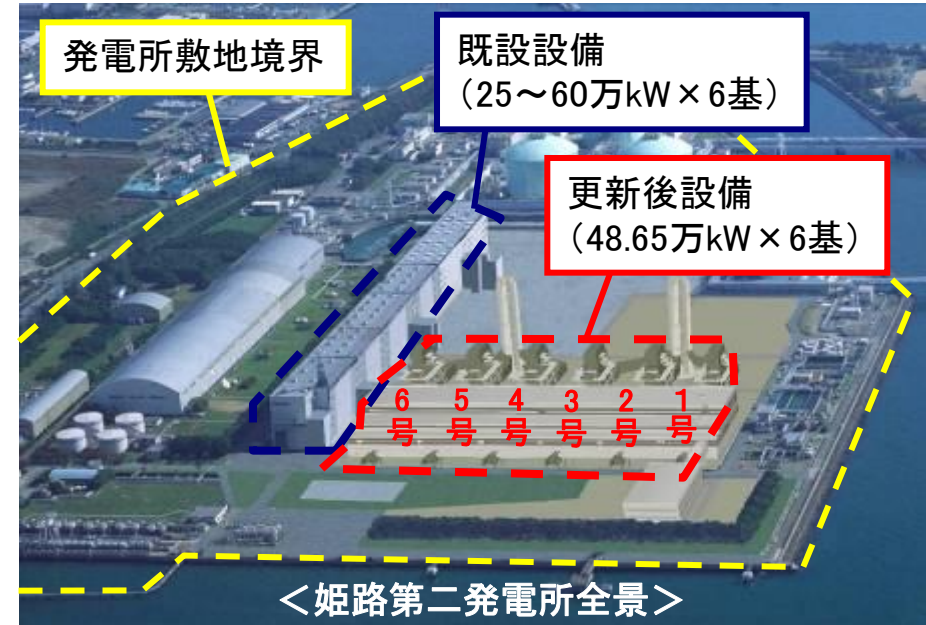
供給力内訳	原子力	0	0
	水力	167	165
	火力	1,663	1,663
	揚水	258	253
	新工ネ	0	0
	他社・融通	524	532

姫路第二発電所設備更新工事の概要

<概要>

火力発電方式の発電設備を、1600℃級ガスタービンを用いた高効率のコンバインドサイクル発電方式へ更新

	既設設備	更新後設備
所在地	兵庫県姫路市飾磨区妻鹿常盤町	
敷地面積	約86万㎡	
発電方式	火力発電	コンバインドサイクル発電
発電所出力	255万kW	291.9万kW
使用燃料	LNG	LNG
熱効率(LHV基準)	約42%	約60%
CO ₂ 排出原単位	0.470kg-CO ₂ /kWh	0.327kg-CO ₂ /kWh
運転開始	1号機：S38年10月 6号機：S48年11月	1号機：H25年8月 6号機：H27年3月



<6号機試運転の予定>

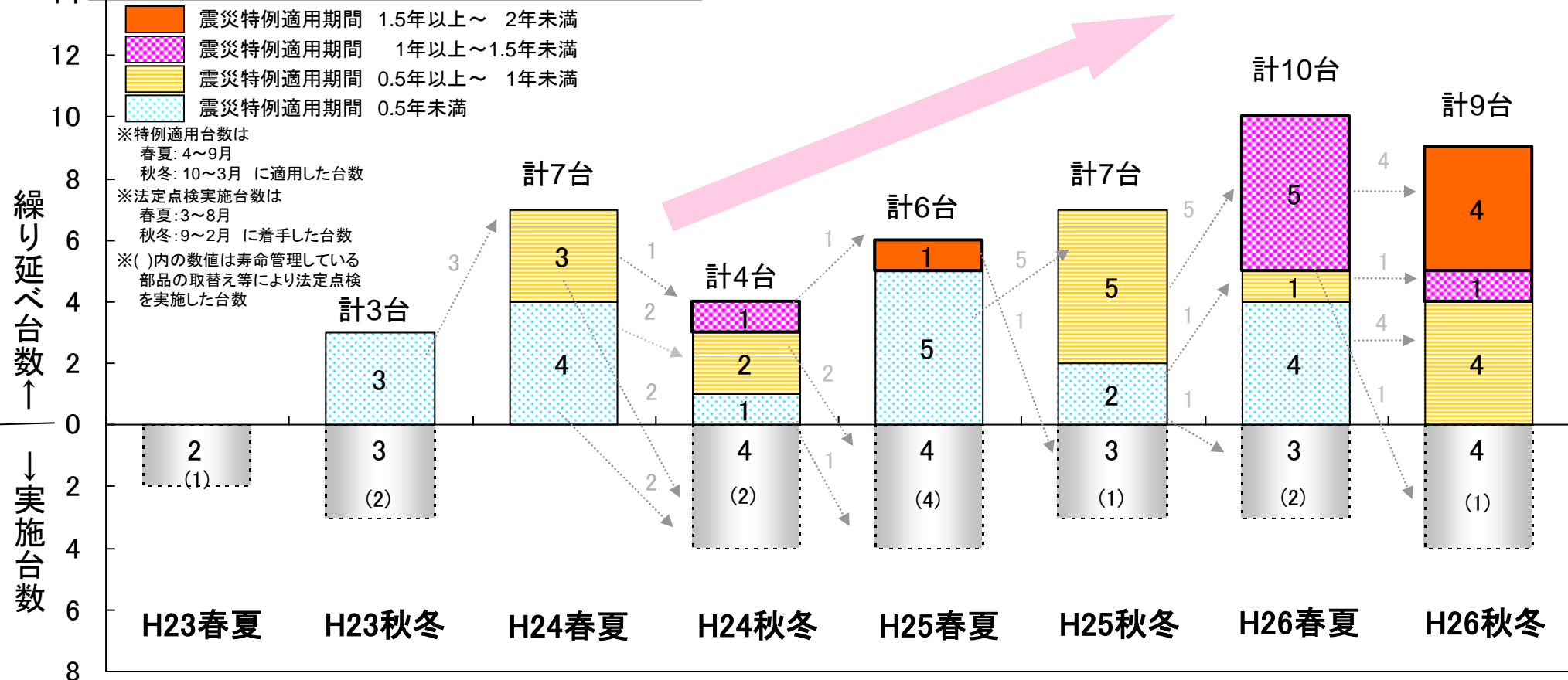
	平成25年度			平成26年度						
				～9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
1～5号	1号機 営業運転開始 H25.8.27	2号機 営業運転開始 H25.11.19	3号機 営業運転開始 H26.3.19	4号機 営業運転開始 H26.7.22	5号機 営業運転開始 H26.9.5					
6号					H26.10.10 試運転(発電)開始	全負荷運転可能 休転				営業運転開始 H27.3.下旬
<div style="text-align: center;"> 試運転 </div>										

○ 姫路第二6号機は、運転開始した先行機の知見を活かすことで、試運転に伴うトラブルの見込みが低いことから、今冬の供給力として見込んでおります。

火力の法定点検の繰り延べ状況

(台)

法定点検の繰り延べ・実施台数の推移



- 震災以降、原子力が停止する中、震災特例を適用し法定点検を繰り延べて、供給力を確保しています。
- 今冬に向けては、9台震災特例を適用しております。
- 震災特例適用期間も長期化しており、冬季ピーク時期にも関わらず法定点検を実施せざるを得ない状況です。
- 法定点検を繰り延べているユニットもありますが、運転継続に必要な作業を実施し、冬季の供給力確保に努めています。

- H26年度の最大電力は、H23年度並の厳寒を前提として、定着した節電を129万kWと見込むことで2, 535万kWと想定しました。
- 供給力は、原子力の再起動がない場合、姫路第二発電所の設備更新による供給力の積み増しや火力の震災特例の活用による定検繰り延べ等を行っても自社では供給力が不足する厳しい需給状況となりますが、他電力からの融通のご協力などにより2, 612万kWを確保することで、最低限必要となる予備率3%は確保できる見通しです。
- 一方、設備トラブル等により、需給状況が厳しくなる可能性もあります。当社としては、引き続き、電力の安定供給のために、火力・水力発電設備の異常兆候の早期発見や早期復旧に最大限取り組むとともに、国の電力需給検証小委員会での検証を含め、国および自治体の皆さまとしっかり連携を図り、対応してまいりたいと考えております。何卒、ご支援、ご協力をよろしくお願いいたします。

今冬の中西6社における予備力

「需給検証小委員会」資料より作成

参考

[平成26年度(2月)冬の需給状況]

(万kW)

平成26年度	中部	関西	北陸	中国	四国	九州	中西6社
供給力	2,530	2,612	559	1,135	527	1,562	8,925
最大電力需要	2,393	2,535	521	1,048	500	1,516	8,513
供給-需要	137	77	38	87	27	46	412
(予備率)	5.7%	3.0%	7.2%	8.3%	5.5%	3.0%	4.8%

[平成25年度(2月)冬の需給状況]

(万kW)

平成25年度	中部	関西	北陸	中国	四国	九州	中西6社
供給力	2,502	2,655	550	1,141	542	1,584	8,974
最大電力需要	2,355	2,576	519	1,052	506	1,536	8,544
供給-需要	147	79	31	89	36	48	430
(予備率)	6.3%	3.0%	6.0%	8.5%	7.2%	3.1%	5.0%

[平成24年度(2月)冬の需給状況]

(万kW)

平成24年度	中部	関西	北陸	中国	四国	九州	中西6社
供給力	2,524	2,642	562	1,181	557	1,584	9,050
最大電力需要	2,367	2,537	519	1,096	510	1,537	8,566
供給-需要	157	105	43	85	47	47	484
(予備率)	6.6%	4.1%	8.3%	7.7%	9.1%	3.1%	5.7%